

まつかげ会会報

発行

愛知縣中川中學校
愛知県立松蔭高等学校 同窓会
名古屋市中村区烏森町 2-2

印刷

日本メール株式会社

思い出



同窓会会長

星野 行正

昭和48年卒(25回生)

前回もご案内しましたが、今年の十一月に八十五周年を開催します。詳細は、この会報誌内に記載されています。会場の都合上、三百人とさせていただきます、申込が届いた順とさせていただきます。

悪しからずご了承下さい。

会報をお送りさせて頂いている二万名の方がご参加いただけるなら、新しく竣工した愛知県体育館でないと執り行えませんが、過去の規模を参考にいたしました。

クラス会を兼ねてといった趣旨でご参加いただくのも良いと思いますし、または、同期生だけでなく先輩・後輩を交えた中で、知見が広がる場として利用するのも有りと思います。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

会長の任を任せられ、今年で十年目を迎えます。

先代の故 安井会長から後をとの言葉をいただいたと

きは、返答が出来ず待つて貰いました。何故なら私は、高校在学時、部活動の盛んな進学校でありながら、帰宅部という部を選択し、時間を無駄にしてみました。ただ、球技大会、体育祭、文化祭などの行事には、率先とは言わないまでも、リーダー的な振る舞いをしていた思い出があります。

三年生での文化祭・合唱で指揮を任せられ、ハモリもしない歌唱で、指揮者のパフォーマンスト、歌声の強弱で体育館の隅まで響き渡らせ、お陰で入賞しました。

遡って一年時の球技大会、サッカーの三位決定戦で、私のゴールが決勝点となり、三位の栄冠を勝ち取れました。

これには、後日談があります。

四十歳を超えた頃、三位決定戦の対戦相手のリーダーの自宅に訪れた時です。

彼に、「実はあんたに謝なければならないことがある」と伝えた所、すかさず彼が、

「あれ、ハンドだろ？」との言葉。一瞬静寂が訪れ、二人で涙を流さんばかりの大笑いをし、という思い出があります。

そんな彼も今は故人となり、語りあう事もあの時のように、酒を酌み交わすことも出来ません。

そんな私でも務まるのか、と自問自答しながら、見つけ出した答えが、高校時代の部活動という忘れ物を、取り戻すために引き受けようと決断しました。

会長になったその年は、和太鼓部が広島で行われる高校総文に愛知県代表で出場するという年だったのです。

途中コロナ禍で開催されない時もありましたが、出来

る限り応援に現地にかけつけました。

広島から、宮城、長野、東京、佐賀、和歌山、と日本の各地をめぐることができました。

途中からは、夏の高校野球の県予選の応援にも伺いました。

こう書くと、同窓会からの出費があつたのでは、と思われる方もいるかも知れませんが、交通費等一切受け取っていません。

私は、こうした同窓会という組織に関わる場合、ボランティア活動だと思っています。潤沢な資金が有り、前年の活動費を上回る費用が確実に入ってくるという会ならいざ知らず、繰越金が減少傾向にあるこうした組織では、奉仕の精神が必要とされると思います。

私達、同窓会の役員は、数多くの社会環境での経験をもっています。様々なチャネルを持っています。

会の支出を抑える術をもっているなら、その差額を、自らの身に取り込むのでは無く会の支出に反映させるべきと考えます。

勿論、反論の意見をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。

同窓会と進めていく上では、公私の「公」を固く維持しないと、色々な邪推が入り、少しでも「私」が入り込めば、後ろ指で簡単に身体が崩れるでしょう。

同窓会まつかげ会は、まだまだ未発達です。

ただ、アドレスはあるけど、開かないホームページ。

同窓会役員による、同窓会会費の入金管理、名簿作成や同窓会員の住所変更入力や削除作業などを手作業でおこなっていました。しかも、会報作成も二カ月近くかけ作成していました。

今では、そうした作業は、業者に一括依頼したことで、どうやって活性化させようかを考え取り組む仕組みは出来上がったと思います。

今後、部活動のOB会などからもご参加いただきながら同窓会を広げながら、若い方の力で参加する百周年の基礎を作って頂きたいと思っています

「松蔭85年」に寄せて



校長

久保田 昌俊

◆はじめに

まつかげ会会員の皆様方におかれましては、日ごろから母校である松蔭高校の教育活動に力強いご支援とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。また、今年度は松蔭高校が85年の歴史を刻むという節目の年であります。ここに至るまで松蔭高校を育て見守り続けてきたまつかげ会の皆様をはじめとする同窓生の皆様にお祝いを申し上げます。

さて、松蔭85年の歴史の中で、私は一教諭として8年間、校長として3年間本校と関わってきておりますが、今一度、松蔭の歴史を知りたいという好奇心から、これまでの歴史のトピックスを追ひ、松蔭の文化や伝統を再確認したいと思います。

◆旧制中学

昭和15年、現在の地に中川中学校が設立されました。（当時烏森地区は中川区。）当時、旧制中学校は名古屋市の東部に多く設置されていたため、西部にあたる地元の人々から大きな期待を受けての開校です。校舎配置等が現在とは異なりますが、当時の校門の門柱が、現在はハンドボールコートの東に移設し保存されています。

◆松蔭高校の誕生

戦後の学制改革により、昭和23年に県立松蔭高等学校

が誕生しました。「松蔭」の名の由来は、すぐ近くの佐屋街道に松並木があり、松の木蔭で静かに学ぶ教育の場の意を込めて「松蔭」と名づけられました。大変趣のある良い名をつけてくださいました。

◆躍動像

校舎等の整備も現在とほぼ同じ状態となった昭和50年、創立40周年を迎えた記念として、先ほどの旧中川中学校の門柱と同じハンドボールコートの東、グラウンド女子更衣室のちょうど目の前に、松蔭生の象徴ともいえる「躍動像」が設置されました。春になると、躍動像と門柱を覆うように桜がきれいに咲き誇っていました。現在その桜の木は残念ながら老朽のため伐採されています。

◆体育祭と文化祭

本校の体育祭は群団制で行われていますが、この歴史は古く、昭和32年から続いているようです。また、松蔭でも以前は体育祭と文化祭が秋の同時期に行われていましたが、昭和53年に大学入試で共通一次試験（現共通テスト）が実施されるのを機に6月開催になり現在に至ります。本校では随分早い時期から、大学入試を意識して体育祭と文化祭が分離していたことがわかります。

◆高校入試制度

新制高校として松蔭が発足して以降、高校入試は学校単独で行われていましたが、昭和48年から「学校群制度」が始まり大きく変化します。松蔭高校は、明和高校と組む「第7群」と、惟信高校と組む「第8群」の二つの群から定員の半分ずつ合格者が入学することになり、様々な地域から多様な生徒が入学してくるきっかけになりました。その後、平成元年から現在まで続く「複合選抜制度」が始まり今に至っていますが、現在松蔭高校は、名古屋市内で唯一の尾張1群と尾張2群の「共通校」になっており、本校を始めた受験校の選択肢が増やせることから、尾張学区のほぼ全域から生徒が通学して

くるメジャーな県立高校に成長しています。

◆部活動

部活動の活躍はすばらしく、昭和45年には男子ハンドボール部が全国総体3位、その後の昭和58年に愛知県で開催した全国総体では陸上競技の女子やり投げで優勝（水野千鶴さん）するなど、全国規模で活躍する生徒が多かったです。平成に入ると男子サッカー部と男子ハンドボール部がそろって全国大会に出場し、公立の雄として県内に松蔭の名を轟かせました。その後も陸上部が競歩で全国総体に出場するとともに、文化部の和太鼓部が全国総合文化祭で2年連続全国1位になるなど、松蔭生の活躍がこれからも大いに期待できます。なお、部活動ではないものの、水泳部員と有志で結成した「松蔭ウォーターボーイズ」も忘れられません。平成15年のテレビ出演後、数年間文化祭の目玉イベントとして多くの観客に松蔭生の躍動する姿をアピールし、そのパフォーマンス力とマネージメント力で松蔭生のチカラを見せつけてくれました。

◆おわりに

松蔭の歴史を改めて振り返ると、卒業生の皆様が培ってきた文化と伝統がしっかりと脈々と受け継がれていると感じます。私は11年ぶりに松蔭に戻って3年目になりますが、現役生は「コロナ禍」のブランクを見事に乗り越え、活気ある高校生活を送っています。行事や部活動は伝統を守りながらも部分的なりリニューアルを図りながら進化しており、また何よりも、学習面での成果も上がってきています。私としては、これからも一層地域に期待され、中学生の憧れの学校となるように、時代の流れに合わせた取り組みを進めながら、卒業生諸氏が伝え続けた「松蔭生が松蔭生たるもの」を途切れることなく育てていかねばならないと深く感じています。そして、未来の松蔭の更なる栄光に期待しています。

教頭としての初めてのご挨拶



教頭

藤田 剛

このたび、松蔭高校の教頭を拝命しました、藤田 剛（ふじた つよし）と申します。まっかげ会の皆様へご挨拶できる機会をいただけることを、心より嬉しく思います。

自己紹介を兼ねまして、これまでの教員生活について書かせていただきます。

教員としての歩み

教員としての第一歩を踏み出した初任校では、右も左もわからない状況の中、多くの先生方に支えられながら授業の進め方、ホームルームの運営、生徒指導の基本を学びました。授業準備の重要性、生徒との向き合い方、部活動の運営など、一つひとつの経験が私にとって貴重な学びとなりました。

ホームルームでは、生徒の成長を間近で感じることができ、彼らの考えや価値観に触れることは、教員としてだけでなく、一人の人間としての視野を広げる機会にもなりました。生徒自身の進むべき道を共に模索することは、大きなやりがいの一つでした。

二校目では、家庭と仕事のバランスを取りながら、一年間学校に貢献してきました。教員としての経験を積

み重ねる中で、指導方法を工夫し、生徒との関わり方を深めることを意識しました。生徒一人ひとりの考えを尊重しながら、彼らの成長を促すことの難しさや向き合い、教育とは単なる知識の伝達ではなく、信頼関係の中で育まれるものであることを再認識しました。

また、この時期から高体連陸上競技専門部の大会運営にも携わり、学校の枠を超えた活動の中で、組織運営や時間管理の大切さを学びました。陸上競技大会の運営では、ルールに則るだけでなく、選手たちが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整えることの重要性を実感しました。その経験は教育現場においても生徒が学びやすい環境を作る視点につながっています。

三校目は、地域を代表する伝統校で、普通科と専門学科が併設された学校でした。生徒の習熟度や進路の方向性が異なる中で、それぞれの特性に合わせた指導を工夫することの大切さを感じました。知的好奇心旺盛な生徒には思考力を刺激する問いを投げかけ、数学に苦手意識を持つ生徒にはわかりやすさを重視した対応を心がけました。どの授業においても、生徒が学ぶ楽しさを感じられることを大切にしました。

また、明確な目標を持ちながらも、大きなプレッシャーを抱える生徒にも出会いました。学習面だけでなく精神的なサポートも重要であると感じ、生徒との対話を大切にしました。彼らの考えや悩みに耳を傾け、生徒自身が折れない心を身につけられるよう注力してきました。

さらに、同窓生のつながりが深い点も特徴的でした。卒業生たちは母校への思いを大切にしながら、その精神を現役の生徒へと継承しています。こうしたつながりの中で、教育の継続性を強く実感し、学校を核とした大きなコミュニティが機能していることを感じました。

松蔭高校へ赴任して

赴任してまだ短期間ではありますが、生徒たちの部活動への熱意や授業への積極的な姿勢を目の当たりにして、「部活動が盛んな進学校」であることを実感しています。また、本校も前任校と同様に、同窓会が活発に運営されており、そのつながりの深さを感じます。学校は卒業して終わりではなく、同じ場所で培った経験や学び、人間関係は、今後の人生を支える大切なものとなります。松蔭高校が、関わるすべての人にとって誇れる学び舎であり続けるよう、これからも大切にしていきたいと考えています。

私は教頭として、松蔭高校が今後もその魅力を維持し、高めていけるよう努めてまいります。そして、皆様とともに本校のさらなる発展に尽力していきたいと考えています。

どうぞこれからも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本校の歴史がこれからも輝き続けることを、心から願っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



学校近況報告



教頭

小栗 浩隆

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より母校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

以下に、本校の近況を報告させていただきます。

卒業生の進路状況

この春も、多くの生徒が本校を巣立っていきました。大学入試においては、国公立大学をはじめ、難関私立大学にも多数の合格者を送り出すことができ、生徒たちの積み重ねてきた努力が確かな成果となつて実を結びました。例えば、記録に残っている中で最も国公立合格者数が多い年となり、現役生での合格者数が三桁に達しました。教職員一同、生徒たちの努力の成果を誇りに思うと同時に、それを支えてくださったご家庭、地域の皆様、そして本校を見守ってくださる卒業生の方々への感謝の思いを新たにしております。

今年度のスタート

3月末から4月当初にかけて寒い日が続いたこともあり、桜の花の下で離任式、入学式、始業式を行うことができました。その光景はとても印象に残るものでした。今年の新入生は、2・3年生の9クラスから1クラス減

となる8クラス、合計320人が入学式を迎えました。厳しい選考を突破し、希望と期待を胸に抱いた生徒たちが晴れやかな顔で校門をくぐる姿には心が温まりました。

探究活動

近年、本校では「理数探究」及び「総合的な探究の時間」という本校の主軸となるべく教育活動に力を入れており、今年度で導入から3年目を迎えました。

1年生時から「理数探究基礎」という授業において探究の基礎を学び、2年生では、理型で「理数探究」、文型で「総合的な探究の時間」という授業で探究活動を引き続き行い、3年生でさらにその授業で探究活動を発展させます。

探究的な学びを通じて、生徒たちは課題発見から解決に至るまでの過程を主体的に取り組み、調査・分析・考察・発表といった一連のプロセスを経験しています。新入生のうちには、最初は戸惑いも見られた生徒もいましたが、回を重ねるごと、学年が上がることに、自ら課題を掘り下げ、問いに向き合う姿勢が育ちつつあること実感しております。

令和元年から変更された1限あたり65分の授業時間が、50分だった頃よりもより深くより多くのプロセスを踏むことができ、通常の授業のみならずこの探究活動の授業にもうまきはたらいていると感じます。

この探究活動の集大成の一つとして、3年生は文化祭において研究成果の発表を行っています。各班が時間をかけて取り組んだテーマについて、スライドやポスターを用いて来場者に向けてプレゼンテーションを行う姿は、学びの深まりを感じさせるものです。まだまだ到達して欲しいレベルや課題点はありますが、そうした場があるということ自体が生徒たちにとって大きな達成感と自信につながる貴重な機会となっています。自らの言葉

で探究した内容を伝えようとするその姿勢は、まさにこれからの時代に求められる資質・能力を体現しているように思います。

進路実現に向けて

今後は、この探究活動をさらに発展させるとともに、生徒たちの進路実現に直結するキャリア教育としての側面も強化していきたいと考えています。自ら問いを立て、調べ、考え、発信するという経験を通じて、自分の興味関心を明確にし、それを進路選択へとつなげていく。そうした学びの循環が本校の教育の中で自然に根づいていくよう、これを職員の探究活動ととらえ、引き続き工夫と改善を重ねてまいりたいと思います。

卒業生の皆様には、今後とも変わらぬご支援と温かいご助言を賜りますようお願い申し上げます。そして、皆様のご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



教職員異動報告

●令和7年度

【退職者】

教諭

教諭(再任用H)

【転出者】

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

教諭

白田 千晶(公民)

高橋 伸行(理科)

萩原 清美(英語)

鈴木 啓和(国語)

加藤真太郎(国語)

富田めぐみ(国語)

吉村 彩乃(地歴)

水野 亜美(理科)

大坪 純代(保体)

山田 真希(家庭)

近藤 健司(国語)

寺尾 哲史(数学)

松井 宏介(理科)

岩田 賢治(英語)

松永 光司(英語)

兵藤恵美子(英語)

眞野昇太郎(理科)

藤田 剛(数学)

下田 悠記(国語)

吉田 翠(国語)

安藤 彰浩(地歴)

高木 敦子(地歴)

尾藤 原野(理科)

星野 孝之(保体)

梶 芳美(家庭)

余吾 教子(国語)

小澤 哲矢(理科)

斉藤 真治(英語)

中村 哲(数学)

安田 理奈(英語)

神谷 孝司(理科)

教諭(再任用H)

教諭(再任用F)

教諭(再任用F)

教諭(再任用F)

教諭(再任用F)

教諭(再任用F)

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職



進路指導部からのご報告

まずは今春卒業した77回生の進路結果についてご報告させていただきます。国公立大学には現役生が106名合格しています。昨年度、途絶えてしまった国公立大学合格者3桁を復活させることができました。また、この106名という数字は昭和62年からの統計では最多の数でもあります。難関10大学といわれる大学にも東北大学1名、名古屋大学4名、神戸大学2名合格を、ほかにも難関といわれる東京外国語大学1名や国公立薬学部にも富山大学薬学部1名、名古屋市立大学薬学部2名合格をしています。

私立大学ですが愛知県では文系は南山大学、理系は名城大学に昨年度と同様に合格者を出しております。年々、生徒の進学に対する意識が増しており、最近では県外の大学にチャレンジする生徒が増えてきました。松蔭高校のホームページを見ていただくとその様子がわかりますので、お時間あるときにご覧いただけたらと思います。

入試結果は様々な要因が絡み合って生み出されるものです。生徒や学年の先生の頑張りがあったことはもちろんですが、今春の結果につながった大きな要因として2つがあげられます。1つ目は少子化です。子供の数が減っているのに大学の定員が変わっていないため、かつての受験戦争といわれた時代に比べると競争がかなり緩和されています。都市部の国公立大学ではまだまだ厳しい競争があるのですが、都市部を離れるとかなり合格しやすくなっているようです。2つ目は年々、松蔭に入学してくる生徒の学力が上がっていることです。松蔭高校では1年生の7月からベネッセの進研模試を受験しています。経年比較してみますと少しずつ学力が上がっていることがわかります。少し?と思われるかもしれませんが、この少子化のなか、また授業料が実質無償になった私立高校に中学生が流れていく逆風の中で入学者の学力が維持できていることだけでもすごいことなのに、上昇していることはかなり珍しいことなのです。進路指導主事だけでなく学年主任・分掌主任は学校紹介のパンフレットを手土産に毎年、中学校訪問をしているのですが、「松蔭高校さんを受験すると年々、厳しい結果が返ってくるから、生徒が受験しなくなった」といったお叱りの言葉も中学校の先生からいただくようになっております。

高校受験を控えている中学生やその保護者のみなさんが注目するポイントに大学への進学実績があります。今春の結果はあくまでも松蔭高校に注目してもらうきっかけになれば十分と考えています。少子化の中、また私立高校に中学生が流れている昨今、松蔭に中学生があつまるのは進学実績ではなく松蔭高校の持つ「魅力」に引き寄せられていること。進学実績をことさらアピールしなくても十分な「魅力」が松蔭にはあります。今年度も、その「魅力」に気付いてくれる中学生が増えることを期待しています。

まつかけ会創立85周年 記念パーティーを 開催いたします!!

開催日

2025年11月22日(土)

時間

11:30~13:30

場所

名古屋ガーデンパレス

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目11番13号
TEL:052-957-1022(代) FAX:052-957-1727

会費

おひとり 7,000円

申込期限

2025年8月31日

先着
300名

お申込み方法

- ① 同封した返信はがきに必要事項を記載の上郵送ください
- ② まつかけ会ホームページよりお申込み

受付完了後に会費払込用紙をお送りします。コンビニで払込みをお願いいたします。

先着順での受付となります。定員を超えた場合には郵送か、メールにて受付不可の旨のご案内をお送りします。

皆さまのご参加をお待ちしております!



2023年 S57年卒『還暦同窓会』のようす

お申込み方法

① 同封の返信はがきで 申込の場合

会報送付時の宛名ラベルに記載されている
※ の部分の数字を必ずご記入ください!!

000-0000

〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇

松蔭 太郎 様

※ 99999



まつかげ会創立85周年
記念パーティー 参加申込書

■参加を 希望する

お名前 (必須)	
宛名に記載 の番号	
ご住所 (必須)	
電話番号	

※申込期限:2025年8月31日 ※先着300名様
※受付完了後に会費払込用紙をお送りします。
コンビニで払込をお願いいたします。
※残念ながら先着超えの場合には受付不可の
ご案内をお送りします。

② まつかげ会 ホームページより 申込の場合

会報送付時の宛名ラベルに記載されている
※ の部分の数字を必ずご入力ください!!

創立85周年記念パーティー参加申込フォーム



<https://matsukage.aichi-shoin.jp/contact/party/>

まつかげ会

ご来場の方へ まつかげ会報の方へ お問い合わせ 検索

まつかげ会創立85周年記念パーティー参加申込フォーム

お申し込み番号

お申し込み日

お申し込み時間

お申し込み場所

お申し込み人数

お申し込み金額

お申し込み内容

お申し込み理由

お申し込みコメント

お申し込みボタン

Web口座振替受付サービスのご案内

※昨年度に紙で申し込みされた方は手続き不要です。

手続き

スマートフォンで右の二次元コードを読み取り手続きを開始します。
(ご家族の方のスマートフォンでも可能です)



※「register@acctrans-reg.jp」からメールが受信できるよう、受信フィルタをご設定ください。 ※メールが届かない場合でも、右の【完了】画面が表示されていれば登録完了です。
※Web口座振替の登録メールを受信しても、画面が【完了】になる前にブラウザを閉じると手続き完了になりませんのでご注意ください。

注意事項

1. 法人の口座は、ご利用いただくことができません。
2. 金融機関毎に利用可能な時間帯が異なります。
3. 金融機関によっては、本人確認のため、通帳に印刷されている最終残高の入力が必要になります。
4. キャッシュカード未発行の口座はご利用いただけません。

お問い合わせ先：共立コンピューターサービス株式会社

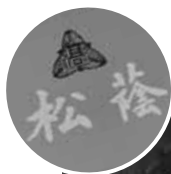
〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地の9 TEL：0584-77-2810

委託者番号	0902716795	アクセスキー	e50385
委託者名	日本メール株式会社(まつかけ会)	代金等の種類	同窓会費等
委託者住所	〒460-0024 愛知県名古屋市中区正木3-13-8 山田ビル 1F・2F	振替(払込)日	28日(休業日の場合は翌営業日)

第27回 昭和50年 卒業生同期会

令和7年3月8日（土）に名古屋観光ホテル那古の間にて
愛知県立松蔭高等学校第27回（昭和50年）卒業生の同期会を開催しました。

今回は昭和100年の年であり、また卒業50年の節目の記念大会となり
関東、関西から、また海外在住の方も含め110名の卒業生が集まっていただきました。
短い時間ではありましたが古希を目前に控え懐かしい高校時代の話から近況報告など
有意義に時間を過ごすことが出来ました。



まつかけ会ゴルフコンペ第46回

■ゴルフコンペ2025春

順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	寛 靖彦	94	20.4	73.6
準優勝	早 川 栄一	99	25.2	73.8
3 位	山 田 章二	95	20.4	74.6
4 位	岡 田 義郎	88	13.2	74.8
5 位	中 嶋 真吾	92	16.8	75.2
6 位	竹 野 かつ江	90	14.4	75.6
7 位	山 田 弘幸	89	13.2	75.8
8 位	加 藤 文昭	95	19.2	75.8
9 位	高 橋 正敏	104	26.4	77.6
10 位	林 直樹	91	13.2	77.8



左から早川さん、寛さん、山田さん

板鼻俊幸	早川(山口)悦央	山田邦雄	江口忍	平成元年卒業(第41回)	平成14年卒業(第54回)	令和3年卒業(第73回)
加藤丈治	川口洋史	櫻井佳由利	磯部昇一	伊藤彰敏	平成14年卒業(第54回)	令和3年卒業(第73回)
下谷(小笠原)里美	森友良	早川直樹	森島夏樹	林克実	児山(山内)綾子	令和4年卒業(第74回)
金沢(三中)朝子	昭和51年卒業(第28回)	昭和54年卒業(第31回)	昭和59年卒業(第36回)	平城15年卒業(第55回)	猪狩光喜	
小長谷(矢田)喜代美	細溝宏友	安井義一	梶(井沢)英子	村瀬瑞樹	水野成夫	山口優弥
伊藤智	森崎(今井)さち子	日比野(橋原)令子	大竹慎二	掛布昇英	平成17年卒業(第57回)	森孝太郎
加藤文昭	石川(永津)由美子	前田(服部)明美	清水俊行	西川明利	平成18年卒業(第58回)	水野心々
山本志伸	石井和夫	徳山稔洋	飯田哲也	岩内裕二	平成18年卒業(第58回)	綿谷拓哉
森(加藤)育代	伊庭宏治	服部嘉賜	木村(加藤)有紀子	佐藤克洋	平成19年卒業(第59回)	野村真志
板倉(佐藤)隆子	松川幸弘	水田正隆	大橋一幸	後藤拓也	平成20年卒業(第60回)	服部和司
稲垣宏	平田(稲山)圭子	伊藤久仁	野々垣晃弘	平成3年卒業(第43回)	平成20年卒業(第60回)	古市巧
星野行正	加藤正夫	篠原淳	横田浩一	蜂須賀仁	今井達也	吉田直希
三柴伊藤陽子	近藤八朗	兒玉康彦	大飼(野々村)友枝	松村太介	平成21年卒業(第61回)	小代笑菜
牧野(山下)順子	熊切(加賀)由美代	山田誠	川島幹生	河村泰	浅井大輝	山本真雪
大西一巳	大澤泰昌	山田利彦	鈴木裕二	服部耕一	加茂愛仁	アキタ
木村元彦	種田寛	林利彦	広瀬(横地)晶子	小椋美奈	野中郁恵	アサクラノフヤ
富田善光	石原(奥村)直子	早川生麻	鈴木(曾)飯田)容子	平成5年卒業(第45回)	平成22年卒業(第62回)	アサノマキコ
寺尾(恒川)弥生	伊藤(遠島)とも子	佐藤向陽	鈴木英夫	加藤俊和	田中祥太郎	アサヒナタカヨシ
荒川宜親	宇佐美(西川)やよい	木村昌博	福山光幸	平成6年卒業(第46回)	田中俊也	アマノヒロコシ
高木哲夫	大岡昌博	青木(飯田)真弓	小林香緒利	中島哲恵	笠井聡美	インベシヨウイチチ
橋本雅司	中村安志	黒川俊久	森雅欣	野田恵	内ヶ島千絵	イトウウカナメ
安井芳治	廣瀬典和	黒川あづみ	昭和61年卒業(第38回)	竹内(西脇)志保	平成23年卒業(第63回)	イトウトシオ
安達弘二	亀垣和夫	長田あづみ	川口博志	佐藤弘将	早田拡生	イナグマヒサエ
鏡味淳	昭和52年卒業(第29回)	昭和56年卒業(第33回)	中島元	福住一	久野潤平	イヌカイモトイ
山崎雅文	坪井誠健	小関昭二	西村政洋	丹羽辰也	長屋智弘	イノウエムネノリ
昭和49年卒業(第26回)	二村智史	塚寄崇史	南出清志	平成8年卒業(第48回)	平成25年卒業(第65回)	イワタヤスヒロ
細江秀喜	大野康史	河口賢治	恒川栄悟	馬場紀行	成田晋	ウエダタケシ
坪井伊藤康子	石黒裕二	谷口謙三	戸谷謙三	伊藤光雄	関藤尚之	オオカワカズオ
三宅五月	黒田康正	丹羽龍憲	森田久男	太田(稲垣)志保美	中川(鈴木)秀子	昭和53年卒業(第30回)
武居俊之	森田久男	堀田尚之	岡田康裕	内山知也	平成27年卒業(第67回)	カタヤマヒデコ
暮沼(葛山)陽子	山田久男	堀田尚之	岡田康裕	内山知也	平成27年卒業(第67回)	カタウノフコ
林(後藤)紀子	太田(稲垣)志保美	佐井紹謙	森本史朗	山田邦博	西畑亜津紀	カタウテツヤ
稲垣貞男	中川(鈴木)秀子	早川立	水野(後藤)晴美	大竹健一郎	平成30年卒業(第70回)	カノウミエコ
河村幸治	田中敦司	山田(柿崎)英子	服部恵子	笠原(奥村)幸江	河原雅己	昭和50年卒業(第27回)
宮崎弘一	山田(柿崎)英子	加藤(船橋)由美子	吉田淳二	伊藤晋悟	服部正宏	大矢(仁村)早弥香
小野之裕	服部恵子	甘利(船橋)由美子	河合修司	柴田(武田)斉子	余語宏明	福元(のど)香
昭和50年卒業(第27回)	笠原(奥村)幸江	江川(鈴木)久美子	三輪田(神巳)由恵	上田幸男	野村(佐々木)沙知子	上口結生
河原雅己	堀部(鈴木)久美子	江川(鈴木)久美子	三輪田(神巳)由恵	上田幸男	野村(佐々木)沙知子	上口結生
西村(大江)真理子	堀部(鈴木)久美子	江川(鈴木)久美子	三輪田(神巳)由恵	上田幸男	野村(佐々木)沙知子	上口結生
後藤(貝沼まゆみ)	三輪田(神巳)由恵	上田幸男	山本志乃	櫻井裕久	番やよい	コガミトシコ
堀田雅司	長谷川泰生	野中直樹	泉知江	阪田(佐竹)菜保子	小林(鈴木)さや香	コヅカトヨコ
林(佐野)恭子	各務泰	近藤直子	阪田(佐竹)菜保子	小林(鈴木)さや香	コヅカマミコ	コバヤシシゲキ
北村(佐藤)恵子	鬼頭徳広	奥村善洋	佃邦彦	野村(佐々木)沙知子	上口結生	コバヤシシゲキ
松本(荒川)鏡子	中川悟	村井浩	中川博子	野村(佐々木)沙知子	上口結生	コバヤシシゲキ

〈自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日〉

繰越金	4,351,418円
令和6年度入会金	1,475,000円
会費	1,912,833円
ゆうちょ銀行口座より会費	3,000円
役員会寄付金	9,000円
利息等	2,343円
合計	7,753,594円

アカデミー講師料	30,000円
役員会会合代	136,100円
会報誌発送(日本メール)	3,240,319円
部活動奨励費	200,000円
卒業証書ファイル代(＠750×296)	287,925円
振込手数料	1,650円
合 計	3,895,994円

令和7年5月3日 会計監査 児玉 康彦

サノ	タカユキ	ハットリ	シヨウジ	モリ	コウタロウ
サワキ	ミエコ	ハヤカワ	ナオキ	モリ	モトシロウ
サワダ	ミホ	ヒラタ	ミズキ	ヤスイ	サトシ
スギウラ	ジュン	ヒラノ	ヨシヒコ	ヤナセ	トモコ
タカハシ	サトシ	ヒロセ	アキコ	ヤマシタ	ケイコ
タカハシ	キヨウコ	ヒロタケ	アンジ	ヤマダ	クニムネ
タケウチ	チダサ	ホソカワ	ジヨウジ	ヤマダ	タカヒコ
タケダ	マサヒロ	ホツタ	マコト	ヤマダ	ヒロユキ
タケノ	カツエ	ホンドウ	アツコ	ヤマダ	ジュンイチ
ツチャ	マサオ	ミネ	テツオ	ヨシミヨ	シタカ
ナカガワ	ヒデコ	ミヤガワ	アキ		
ナカシマ	ユタカ	ミヤシタ	サトル		
ニシオカ	マナト	ミヤハラ	シンジ		
ニシオリ	ヒロアキ	モリ	コウタロウ		
ニシトモ	ユキ	モリ	カオリ		

まつかけ会事務局

改姓 住所変更 等のご連絡時に、送付された住所・氏名の上部に記載されている数字を必ずご記入ください。

また、同級生・同窓生で、町名・地番が変更になり、届かなくなったという方がいらっしゃいましたら、メール、郵送等でご連絡いただくようお願いください。(宛先不明との理由で大量に戻ってきました。)

同窓会(まつかけ会)HP <https://matsukage.aichi-shoin.jp>

まつかけ会ホームページ



事務局／管理委託会社

日本メール(株) 担当：三澤

〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

学校に事務局はありませんので連絡は郵送かメールにてお願いします。

000-0000

〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇

松蔭 太郎 様

※

99999

※

の部分の数字を
必ずご記入ください!!

住所変更届

氏 名
(旧姓)

No.

提出日 月 日

卒業年度	昭和 平成 令和	年	普通 商業	組
------	----------------	---	----------	---

新 住 所

電話 () —

旧 住 所

以上をご記入の上、同窓会事務局に郵送。

郵送先

愛知県中川中學校 同窓会「まつかけ会」
愛知県立松蔭高等学校
事務局／管理委託会社 日本メール(株) 担当：三澤
〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

『まつかけ会年会費』 ご協力のお願い

『まつかけ会』会報は皆様方の年会費で発行されています。何卒御協力をお願い申し上げます。

・まつかけ会年会費：3,000円 ・お支払い方法：口座振替 または コンビニ払込
(口座振替の手続き方法については会報中面をご確認ください。)

※お支払いはどちらか一方の方法をお願い申し上げます。(口座振替を申込された方はコンビニ払込は不要です)